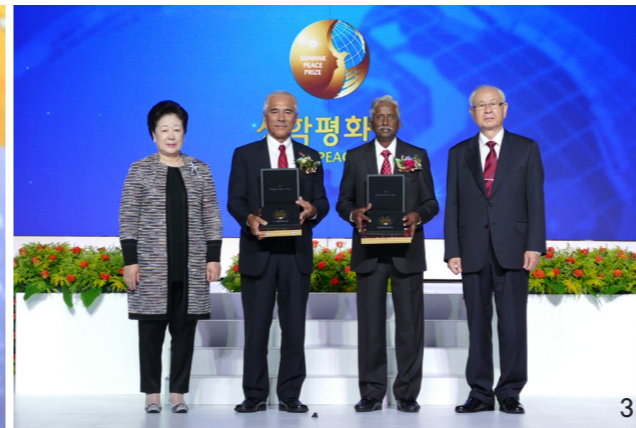


第1回鮮鶴平和賞アノテ・トン大統領、モダドゥグ・グプタ博士共同受賞

創始者・眞の父母様が直接表彰 鄭義和国会議長など各界1,000人余り参加



1. 第1回鮮鶴平和賞授賞式に出席される眞のお母様



「第1回鮮鶴平和賞授賞式」が天曆7月15日(陽曆8.28)午前10時、ソウル市江南区グランドインターコンチネンタルソウル・パルナスホテルで開催された。この日の授賞式には、鮮鶴平和賞の創設者・眞のお母様中心に文善進鮮鶴平和財団理事長、鄭義和国会議長、ソウル平和賞文化財団・李哲承理事長などの主要人士、モハammad・ユスフ・カラインドネシア副大統領など「World Summit 2015」に参加した海外からの前現職国家元首をはじめ政官界、学界、財界、言論界、宗教界を代表する1,000人以上の人士が参加して盛況をなした。

眞の父母様に尊敬と感謝・平和実現のためにさらに努力
「鮮鶴平和賞」は、未来世代の平和と福祉に著しく貢献した個人または団体を表彰する賞である。「人類の未来平和は海」を第1回授賞テーマに定めた鮮鶴平和賞は、全世界の著名人1000人余りで構成された推薦委員の候補者推薦の後、厳正な審査を経て受賞者を決定した。最初の受賞者には、アノテ・トン(男、63歳)キリバス大統領とインドの

モダドゥグ・ヴィヤイ・グプタ(男、76歳)博士が共同選定された。この日、眞のお母様は洪一植鮮鶴平和賞委員会委員長と一緒に受賞者にメダル及び賞牌を授与された。アノテ・トン大統領は受賞演説で「権威ある鮮鶴平和賞の最初の受賞者に選ばれ光栄に思う」と語り、「世界平和の究極的な目標をなすために、人類のために献身して来られた文鮮明・韓鶴子総裁に敬意を表する」と語った。続いて「鮮鶴平和の共同受賞者に選定された後、世界がキリバス国民の逆境とそれを克服しようとする努力を見守っている。全世界が私達の国民を見捨てないことに大きな希望を持った。今後、気候変動の最前線で死闘を繰り広げている人々が一人で残されないように最善を尽くしたい」と受賞の所感を伝えた。共同受賞者のモダドゥグ・ヴィヤイ・グプタ博士は「生涯の目標は、空腹と貧困を減らし、平和な社会を構築すること」と述べ、「第1回鮮鶴平和賞を受賞できたことは、大きな名誉と栄光」と伝えた。続いて「鮮鶴平和

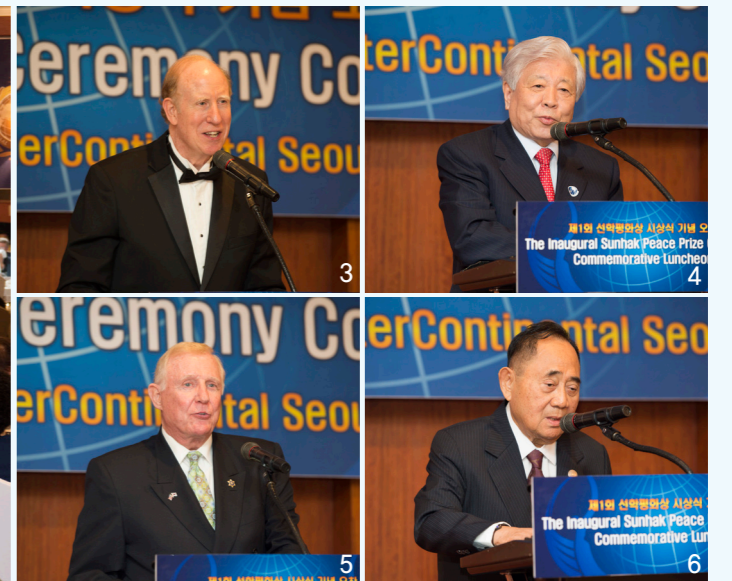
賞受賞をきっかけに、飢餓と貧困緩和を通して、平和社会に貢献しようとする私の一生の目標に再び拍車をかけたい」と述べた後、平和な人類一家族のビジョンと理想を追求して来られた眞の父母様に敬意を表し受賞演説を終えた。

鮮鶴平和賞新しい平和の地平開く
この日の授賞式は、放送人シン・ヨンイル氏とチョン・セミアナウンサーの司会で開会宣言、経過報告、洪一植委員長の歓迎の辞、鄭義和国会議長の祝辞、モハammad・ユスフ・カラインドネシア副大統領の祝辞、受賞者紹介ビデオ、メダルと賞牌授与、受賞者の受賞演説の順で進行された。洪一植委員長は歓迎の辞で「現代は貪欲と利己心を捨て、人種と国境と思想と宗教を超越して人類愛を基盤とした平和文明を模索すべき歴史的な使命が与えられている」と指摘し、「鮮鶴平和賞は『未来世代のための平和』という旗の下、人類が20世紀まで積み上げてきた文明の積弊と限界を超えて、人類共同の平和を追求していく新しい平和の地平を切り開いていく賞として位置づけしていく」という抱負を明らかにした。

祝辞を通して鄭義和国会議長は「今日この場は、美しい共存の世界を作ってきた私たちの時代の英雄のための場」とし、「人類を脅かしている国、人種、宗教間の葛藤は、自然と人間と一緒に和合する時にのみ克服することができる問題」であることを強調した。続いて「人間と自然に対する愛、共同体の連帯と疎通に基づく世界を志向する鮮鶴平和賞のビジョンは、私たちに示唆するところが大きい」と共同受賞者に祝賀メッセージを伝えた。モハammad・ユスフ・カラインドネシア副大統領は祝辞で「人類が望むことは結局、平和世界であることを強調し、「平和を妨げるすべての紛争と葛藤を終息させ、互いに和合し調和をなすとき、また自然と一緒に共に生きていくときにまさに、平和がなされる」と述べた。世界的な音楽家チョ・スミ氏と韓国子供伝統芸術団のリトルエンジェルスが幻想的なハーモニーをなし、祝歌を歌って授賞式の雰囲気盛り上げた。一方、アノテ・トン大統領は訪韓期間中の天曆7月14日(陽曆8.27)、ソウル市庁で行われた「2015気候変動フォーラム」に参加して基調講演を行い、討論に参加した。〈記事提供: 鮮鶴平和賞委員会〉

「第1回鮮鶴平和賞記念午餐」開催

総裁ご夫妻の平和遺産相続し統一された一つの世界に向かうべき



1. 祝賀ケーキカットされる真のお母様
 2. 祝辞を述べる文善進鮮鶴平和財団理事長
 3. 司会をするトマス・ウィルシュUPF世界会長
 4. 所感発表を述べるチョン・テイク韓国外交協会会長
 5. 所感発表を述べるダン・バートン米国下院議員
 6. 所感発表を述べるホセ・デ・ベネシアフィリピン国会議長

「第1回鮮鶴平和賞記念午餐」が天曆7月15日(陽曆8.28)12時、ソウル江南区グランドインターコンチネンタルソウル・パルナスホテルオーキッドルームで開かれた。記念午餐で真のお母様、文善進鮮鶴平和財団理事長、洪一植鮮鶴平和賞委員長、共同受賞者アノテ・トン大統領とモダドゥグ・ヴィヤイ・グプタ博士は、歴史的な第1回鮮鶴平和賞授賞を祝うケーキをカットした。午餐はピ・ケイシン・シッキム(インド)州前知事の乾杯で始まった。

総裁ご夫妻の平和遺産相続と私たちの使命

文善進理事長は記念午餐祝辞で「鮮鶴平和賞の創設者である故文鮮明総裁と韓鶴子総裁ご夫妻は、世界平和実現のために一生を完全にささげられた。文総裁ご夫妻の業績の重要な焦点は、『神様の下の人類一家族』である」とし、「このビジョンは、人類が真の愛の心情文化の中でお互いに和合し、協力して生活する一つになった世界を意味する」と明らかにした。続いて「私の父母である文鮮明総裁ご夫妻は、様々な困難の中でも真の愛の道を歩まれ、平和の種を全世界に撒かれた。その種子は深い根を下し見事に成長して、各分野で平和の基盤を拡大するのに大きな貢献をした。鮮鶴平和賞は、総裁ご夫妻の驚くべき平和の遺産に敬意を表する」と語った。また文理事長は「自然は私たちの最初の母だ。私たちの成長と生命維持に必要なすべての要素を、その母親から受けている。地球上のすべての存

在の原因は愛である」という真の父母様のみ言葉を引用し、「地球が創造された目的は、人間が森羅万象と自然の感動的な美しさの中で繁栄すること」と強調し、「ために生きる生を實踐して、この地球をより美しい姿後の世代に引き継がなければならない。総裁ご夫妻は、誰よりもこうしたことの模範となられた」と、平和の伝統継承を要請した。最後に文善進理事長は、「鮮鶴平和賞受賞者であるアノテ・トン大統領とモダドゥグ・ヴィヤイ・グプタ博士は、人類一家族とこれから生まれる後代のために大きな貢献をされた。今後も平和と人類の福祉のための発展的なプロジェクトと一緒に協力して推進することを願う。さらに鮮鶴平和賞を通して肯定的な変化をなし、統一された一つの世界に向かっていこう」と平和運動への参加を呼びかけた。

第1回鮮鶴平和賞の成功の上にさらなる発展願う

続いてチョン・テイク韓国外交協会会長、ダン・バートン前米国下院議員、ホセ・デ・ベネシアフィリピン元国会議長などがこの日の行事に対する所感を発表した。まず、鮮鶴平和賞委員会の委員であるチョン・テイク会長は、「昨年から1年間、受賞者選定に心血を注いだ。100人余りの候補者の中から二人が受賞したのは、葛藤と反目の反対概念である狭義の平和ではなく、人類の未来について気候変動と食糧危機への対策が急がれているという認識の

下、より拡大した平和の概念を適用したためである」と受賞者選定過程について説明した。続いて「こうした意味で、未来に人類が如何なる方向に行くべきかを、実践的行動で示した二人の受賞は意義深い。第1回鮮鶴平和賞は成功し、今後さらに発展していこう」と予想した。ダン・バートン議員は「人類は平和世界建設のために絶えず努力してきた。国際的協調の中で食料と環境問題を解決するために努力しなければならないという見解に共感する。鮮鶴平和賞が設立者である韓鶴子総裁のリーダーシップの中で年を重ねるごとに発展していくことを祈る」と語った。最後にホセ・デ・ベネシアフィリピン元国会議長は「鮮鶴平和賞は、世界平和と人類の未来のために献身的な人生を送られた文鮮明総裁の遺産である。今年で聖和3周年を迎えた文鮮明総裁は、真の愛で平和のビジョンを實踐し、国境、宗教、文化、人種、言語の壁を越えて、人類が一つの家族になりえることを示してくださった」と証した。続いて「文鮮明総裁ご夫妻は、南北統一のために多大な努力をされた。今日、鮮鶴平和賞表彰式をきっかけに、韓半島統一のための努力がより一層具体化することを期待する。ドイツができたのだから、間違いなく韓国もすることができる。私たちが意志を持って平和統一のために努力すれば、神様が統一の道をご導いてくださるだろう」と述べた。

第1回鮮鶴平和賞受賞者講演

「第1回鮮鶴平和賞受賞者講演」が天暦7月15日(陽暦8.28)午後5時、国内外の指導者が参加してグランドインターコンチネンタルソウル・パルナスホテルで開催された。この日の共同受賞者であるアノテ・トン大統領とモダドゥグ・ヴィヤイ・グプタ博士の講演を要約・整理して紹介する。- 編集者注

アノテ・トン大統領 気候変動と世界平和

今日、私たち一堂と会して下さった韓鶴子総裁と全人類を抱擁し、世界平和を醸しだし後援するビジョンに深く感謝申し上げます。

一つしかない私たちの世界、私たちの地球、私たちの家が今、大きい転換点を迎えています。私たちが結果に対して慎重に考えず延々と短期的利益だけを追求するなら、一つしかない私たちの家と地球は取り返しのつかないほどに破壊されるでしょう。その被害の影響圏にあるのは、私たちの国民だけではありません。全人類です。

海拔3メートルにもならないサンゴ島に住んでいるキリバス国民は、海面上昇だけでなく、サイクロンパーム、極度の気候パターンにより、今まで経験したことがない大きな危機に直面しています。私たちの島と家には人がもはや暮らすことができないだろうし、これは今世紀に限った問題ではありません。家をはじめ国民として、文化としてすべてのアイデンティティを失うことで、子孫の未来が危機にさらされているのです。キリバスは今、ツバル、マーシャル諸島、トケラウ、モルディブなどのサンゴ島国家と一緒に気候災害の最前線で死闘を繰り広げています。

しかし、希望はあります。過去数年間、国際社会は、気候変動がこれ以上進まないように議論をしてきたし、気候の危機に対する認識が広がっていると思います。明らかに認識が広がっています。この問題を解決するために、国際的なレベルの約束も明らかです。気候変動の猛襲は静かに近づいていますが、私たちはそれを安易に考えて「今は、気候変動を解決する費用が多くかかるので、次の世代に受け継がせよう」と思っています。このような考えは安保問題をさらに致命的で危険なものにしています。

私たちは、すべての気候変動の厳しさと頻繁さをある程度経験しました。そうならないことを望みますが、気候変動による災害が今より頻繁になれば、全世界で大惨事が発生し、争いが起こって発展が中断されるでしょう。

私たちは子孫のために、この災害を「認識」すること以上のことをする必要があります。私たちは被害を見る人ではなく、平和と安保問題を包括的に解決する「行動」をすべきです。私たちの地球と世界共同体の未来を守る「行



共同受賞者アノテ・トン大統領

動」をすべきであり、誰も捨てないと保証する「行動」をする必要があります。何よりも最前線の国家の最も脆弱な人々のために、気候変動で発生した既存の問題と安保問題を早急に解決する「行動」をする必要があります。実際に私たちは、一人でこの仕事をするにはできません。ある国の人も、その行動が残りの世界とかけ離れてはだめです。一つの地球に共存している責任ある世界市民として、地球を保護することと子孫に安全な未来を保証することは現世代の道徳的義務です。

モダドゥグ・グプタ博士

「小規模農業と食料安保と平和」

主催側である鮮鶴平和財団とその創始者・韓鶴子総裁に心から感謝します。私は今日、食料安保と世界平和、そしてそのための小規模農家の役割に焦点を当てて話したいと思います。

釈迦牟尼は人類の最も大きな病気が「飢え」と言いました。今日、貧困と飢餓は、発展途上国が直面している最も困難な問題です。毎日世界人口の9人に1人が飢えています。それは世界人口の13.5パーセントに当たる約8億人で、ほとんどの発展途上国に分布しています。

私たちは「小規模農家のための技術開発」で、水産養殖こそ土地のない多くの人々に利益を提供する手段と方法だと思いました。国連の食糧農業機関(FAO)と国際労働機関(ILO)によると、10億以上の世界農業人口のうち、ほぼ半数が土地なし労働者として働いています。また、仕事をする2億4千万の世界の子供のうち、60パーセントが水産業と水産養殖を含む農業に従事しています。



共同受賞者モダドゥグ・グプタ博士

私たちは、この問題をある程度まで解決するために、草の根レベルで活動するNGOと手を握りました。土地のない多くの人々を5~10人ずつのグループにまとめて動機を与え、教育するのはもちろん、彼らが池を公的・私的に賃貸するように支援し、養殖を始めるようにしました。

私たちは子供も学校の勉強に支障を与えずに、養殖活動に参加することができる程度の簡単な技術を開発しました。こうした努力は、活用されていない水資源を活性化させ、土地のない世帯の生計手段を創出する結果をもたらしました。このアプローチが成功して、アジアとアフリカの多くの国で導入しています。

私たちは緑色革命を話すとき、飢餓から数百万の人々を救うことができる遺伝的強化及び品種交配について話します。しかし、魚の場合、特に熱帯地方では飼育をあまりしていないので、遺伝研究に着手する能力がかなり不足している状態でした。

そこで、私たちは、先進国の研究機関と途上国の研究所のネットワーク及びパートナーシップを通して、アジア、太平洋、アフリカの発展途上国が人的資源を開発し、制度を強化するために努力しました。その結果、急速に育つ魚種を多様に開発し、発展途上国内の魚の生産量増加に大きく寄与しました。

緑色革命が食糧と栄養安保に貢献し、貧しい何百万の田舎の人々の生計を向上させるには、まだやるべきことが多いです。このためには国の適切な戦略、開発計画、適切な資源配分が必要です。すべての人々が幸せに暮らすことができる平和な世界を構築するために、私たちすべてが力を合わせて、貧困、飢餓、栄養不足の問題を解決しましょう。🌱

真のお父様宇宙聖和3周年記念2015青年学生世界総会開幕

文善進世界会長の記念の辞「真の愛を最高目標とした天の孝子になろう」

真のお父様宇宙聖和3周年記念青年学生世界総会が、天曆7月15日から17日まで(陽曆8.28~30)、全世界の統一家庭、未来世代を代表する青年、CARP、成和学生リーダーなど3,500人余りが参加して天宙清平修練苑で行われている。今回の総会は「私たちはここにいます」というモットーで天の父母様と真の父母様に未来世代の希望を献呈する決意と和動の祝祭として企画された。

平和の夢を実現し世界の希望となるべき

文善進世界会長は、総会記念の辞で、まず「全世界から来られた青年学生の情熱にとっても感動した」とし、世界から来た参加者に挨拶した後、「今日、第1回鮮鶴平和賞授賞式があった。真の父母様は摂理的勝利に喜ばれた」と伝えると、参加者は大きな拍手で応えた。

続いて「皆さんのダイナミックな覇気と情熱的な若さが、統一家庭の未来について絶対的な希望を与えている。皆さんが選んだモットーである『私たちはここにいます』は、真の父母様に大きな喜びを与えている。また、天の父母様と真の父母様に希望を献呈をし、真の孝子と孝女になると誓った皆さんに感謝する」と述べた。

文世界会長はまた、「宇宙聖和3周年を迎えて、私たちすべては、本当の心と心情と靈魂で真の父母様の伝統を相続し、未来世代に永久的遺産を残すべき責任がある」と指摘した後、「若い青年としてどのようにすれば恒久的な平和世界を達成できるか深く考え、それぞれの可能性と才能を発見して、平和の夢を実現することができる皆さんになることを願う」と願った。

続いて「若者世代は、心と人格を成長させ、自身の唯一の価値を発見し、人生の目標を明確に理解しながら、その目標達成に集中しなければならない」という真の父母様の教えを伝え、「真の愛が人生の目標と核心になれば、私たちは無限の祝福を受けるだろう、その祝福は名誉、出世、忍耐、創意性、調和、品位の源泉になるだろう」と強調した。

最後に文善進世界会長は「宇宙聖和3周年に集まった私たちは、大きな情熱と希望を持っている若者だ。また、私たちすべては、天の父母様と真の父母様の下で一つの兄弟姉妹である。私たちが手をつないで一緒に活動すれば、間違いなく明るい未来を作ることができ

ると確信する」とし、「皆さんの心にある宝物のような聖なる光を大切にし、世の中の人々に希望を与え成長していくことを願う」と祈った。

Vision 2020青年学生アジェンダ(Agenda)採用

この日の開会式は、文相弼韓国CARP会長の司会で開会宣言、敬礼、花束奉呈、ナオキミ・ウシロダ米国CARP会長の報告祈禱、大陸別青年学生紹介、権仁成ワールドCARP会長の歓迎の辞、文善進世界平和統一家庭連合世界会長の記念の辞、イ・ヒャンジュ韓国CARP学生会長とフジタニ・ヒロキ日本成和学生代表の決意の時間、本山日本CARP会長の億万歳三唱、閉会宣言、記念撮影の順で進行された。

権仁成ワールドCARP会長は歓迎の辞で、「真のお母様は統一家庭の未来世代を愛され『世の中の前に貴く成長して指導者として勝利する生を生きることができるよう指導せよ』と指示され、「これは統一家庭の中で最も緊急な課題」と指摘した。

続いて「真のお母様のみ言葉で自分の中に熱い情熱が再び蘇ることを体験し、皆さんと向かい合うこの瞬間を心待ちに待っていた」とした後、宇宙聖和3周年を迎え真の父母様のビジョンと希望を相続するために、2015青年学生世界総会に出席した全世界青年学生を歓迎した。

この日開幕する青年学生世界総会は、初日の集会と出会い、二日目の相続と約束、三日目の希望献呈などのテーマで進行し、世界から来た青年学生は、真の父母様の特別集会、青年学生総会、心情文化祭、聖地巡礼、先輩家庭との出会いなどのプログラムに参加した。

一方、2015年青年学生世界総会は、次のような8つのVision 2020青年学生アジェンダを採択した。△アイデンティティ(真の父母様の子供としてのアイデンティティを守り、個人の能力開発)、△伝道(神家族的メシヤ活動に参加して一人3人伝道)、△教育(後輩、弟妹の教育に積極的に献身)、△一つの兄弟(すべての祝福家庭の子女をみ旨の道に導く)、△南北統一(韓半島統一のための世界的青年学生キャンペーン推進)、△真の家庭運動(幸福な家庭を作り、家庭の価値を高める)、△世界平和(世界平和学生連合のUN登録)、△環境保護(自然環境を保護する世界的青年学生キャンペーン推進)。<記事提供:ワールドCARP>



1. 記念辞を述べる文善進世界会長
2. 拍手で文善進世界会長の歓迎する青年学生
3. 大陸別紹介の時間に力強い情熱を示す北米大陸青年学生
4. 歓迎の辞を述べる権仁成ワールドCARP会長
5. 司会をする文相弼韓国CARP会長
6. 報告祈禱をするナオキミ米国CARP会長
7. 億万歳をする本山日本CARP会長
8. Vision 2020の勝利を決意する全世界青年学生

天宙聖和3周年記念「WORLD SUMMIT 2015」開幕

全世界の前現職国家元首・宗教・政治・経済・NGO・女性指導者250人以上参加



「WORLD SUMMIT 2015」が天曆7月14日から18日まで(陽曆8.27~31)「平和、安保、人類の発展」をテーマに55カ国から前現職国家元首、政治、宗教、経済、NGO、女性指導者が250人余りが参加して行なわれている。

天宙平和連合創設者・文鮮明天地人真の父母天宙聖和3周年記念行事の一環として企画された今回の「WORLD SUMMIT 2015」には、アノテ・トン(Anote Tong)キリバス大統領夫妻、ムハマド・カラ(Muhammad Kalla)インドネシア副大統領夫妻、シアオシ・ショベルレニ(Siaosi Sovaleni)トンガ副大統領、アディ・コアラ・ナイルティカオ(Adi Koila Nailatikau)フィジー令夫人、レオニード・クラフチュク(Leonid Kravchuk)前ウクライナ大統領、フェデリコ・フランコ(Luis Franco)前パラグアイ大統領、フォンサルマギン・グオチルバット(Punsalmae Ochirbat)前モンゴル大統領、ラヒム・フセイノフ(Rahim Huseynov)前アゼルバイジャン首相、スタニスラフ・シュシケビッチ(Stanislav Shushkevich)前ベラルーシ最高ソビエト議長などが参加した。

「WORLD SUMMIT 2015」開幕晩餐は天曆7月14日(陽曆8.27)午後5時、グランドインターコンチネンタルソウル・パルナスホテルで開かれた。主催側を代表して文妍娥世界平和女性連合会長、トマス・ウォルシュUPF世界会長、アン・ジュンソク世界平和統一家庭連合世界副会長が、世界各国から来た指導者を歓迎した。

「WORLD SUMMIT 2015」に参加した国内外の指導者は、天曆7月15日(陽曆8.28)、第1回鮮鶴平和賞表彰式と祝賀午餐と、受賞者のアノテ・トンキリバス大統領とインドのモダドゥグ・グプタ博士の受賞者特別講演に出席し、天曆7月17日(陽曆8.30)文鮮明天地人真の父母天宙聖和3周年記念日には記念式に出席し、人類救援と平和世界実現のために献身的な生涯を生きて来られた真のお父様の崇高な志を称える予定である。

一方、前現職国家元首と各界指導者は「WORLD SUMMIT 2015」で行われる総8回のセミナーで「平和、安保、人類の発展」をテーマにした基調講演を聞き、平和の観点、中東平和、女性の人権、家庭の価値、アジア太平洋地域の平和について議論した。また、キリスト教、イスラム、仏教、ヒンズー教から出席した宗教指導者が、超宗教和解儀式と平和のための発表も行う予定である。

天宙平和連合(UPF)は昨年、天宙聖和2周年を記念して、2014世界平和サミットを「平和、安保、人類の発展」をテーマに13カ国の前現職首班と400余人のオピニオンリーダーが参加して、ソウルヒルトンホテルで行われ、今年「WORLD SUMMIT 2015」は3番目の行事だ。2005年に米国ニューヨークで創設されたUPFは、UN経済社会理事会特別諮問機関の地位を持つ国際連帯機構で、韓国をはじめ、世界各地で活発な活動を展開してきた。韓国UPFは現在、全国3万2千人の各界職能別指導者が活躍している。



1.「平和、安保、人類の発展」テーマのセミナーの様子
2. WORLD SUMMIT 2015参加者を歓迎する様子
3.開幕晩餐後に記念撮影する各国指導者ら
4.セミナーに参加した国内外の指導者ら
5.歓迎の辞を語るアン・ジュンソク世界平和統一家庭連合世界副会長
6.司会をするトマス・ウォルシュUPF世界会長



世界平和女性連合天宙聖和3周年迎え韓半島の統一未来を準備



韓半島統一と北東アジア平和実現シンポジウム開催・第5 UN事務局誘致運動展開

世界平和女性連合(以下、女性連合)は、文鮮明天地人眞の父母天宙聖和3周年を迎え「女性指導者摂理特別教育」「2015韓半島統一と北東アジア平和実現シンポジウム」「大学生統一フォーラム」などの記念行事を開催した。こうした記念行事は、眞の父母様の平和ビジョンと思想を各界指導者、大学生、一般市民に伝え、韓半島の統一未来のための環境を造成し、DMZ平和公園造成と第5 UN事務局誘致のための世論を拡散する目的で企画・進行された。

女性指導者及び大学生教育を通じて統一時代準備

女性連合が主催し世界平和教授協議会が後援した「女性指導者摂理特別教育」が天曆5月10日(陽曆6.25)から1泊2日間、文妍娥世界会長を中心に女性連合広域市道支部長、ソウル市区支部長、本部職員など52人が参加して武昌浦パレスで実施された。

特別教育は、眞のお父様天宙聖和3周年勝利のための内的精誠の基台の上に、支部長が天一国と祖国光復そして神氏族的メシヤの摂理的意味を正確に理解し、国家復帰と眞の父母様のUN摂理のために活動することができる能力強化の場として準備された。

教育日程の間、鮮文大学校チョン・シク教授の「韓半島DMZ世界平和公園造成の意味」、韓半島平和国際協力ネットワークのパク・ジュンヒョン会長の「摂理史観から見たUNの歴史:新しい平和文化誕生の地 第5 UN事務局」、鮮文大学校・呉澤龍教授の「DMZ世界平和公園造成と第5 UN事務局誘致に関する摂理的意義」などの講座が行われた。

教育後の閉会式で、文妍娥世界会長は「今回の教育を通じて、摂理の方向を正確に理解し、地域女性リーダーとしてVision 2020勝利と神氏族的メシヤの使命を果たすために最善を尽くしてもらいたい」と参加者を促した。



1.6.「2015韓半島統一と北東アジア平和実現シンポジウム」行事の様子
2.請願書サイン後に団体記念撮影
3.大学生統一フォーラム進行の様子
4.摂理特別教育後、記念撮影する女性連合指導者ら
5.誘致請願書に署名した後、記念撮影するVIPら

一方、韓半島統一と北東アジア平和を実現するための大学生統一フォーラムが天曆5月18日(陽曆7.3)、「南北韓社会文化統合統一過程での南北韓青年の役割」をテーマに、60人以上の大学生が参加して女性連合の主催で、世界日報ユニホールで開催された。この日のフォーラムでは、北朝鮮大学院大学イ・ウヨン教授、西江大学政治外交学科キム・ソンヒ学生(脱北者、北朝鮮青年代表)、東国大学校北韓学修士課程在学中のキム・ドク学生(韓国青年代表)などが統一に関する各自の見解を明らかにした。フォーラムに参加した大学生は「統一

を事件ではなく過程として認識し、日常で統一時代を準備する知恵を学ぶことができる意味深い時間だった」と述べた。

2015韓半島統一と北東アジア平和実現シンポジウム開催

女性連合主催「2015韓半島統一と北東アジア平和実現シンポジウム」が天曆6月7日(陽曆7.22)、南楊州市2庁舎大講堂で開催された。「DMZ世界平和公園造成と第5 UN事務局韓国誘致の必要性」というテーマで開催されたこの日のシンポジウムには、各界指導者と市民

など200人余りが参加した。文妍娥世界会長は歓迎の辞で、「韓半島非武装地帯(DMZ)に平和公園を造成し、第5 UN事務局を誘致しようとする民間と政府の活動は、今後UNが推進しようとする平和政策に新たな活力と方向を提示する」として意味を与えた後、「21世紀平和世界に向けた歴史的前進が韓半島から始まるだろう」という信念を明らかにした。ミン・ギョンジャ退役軍人女性会会長が座長を務めて進行したシンポジウムで、UN韓国協会副会長のパウ・フンスン鮮文大学校国際関係学科教授は、「韓半島平和定着のための国際機関誘致及び造成方案」という主題発表で、DMZ平和公園造成と韓半島第5UN事務局誘致の正当性を表明した。討論では、ク・ドンス教授(韓神大学)、ハン・ユンス前会長(南楊州市民主平統)、シン・フンギョン会長(民族統一協議会、南楊州市)などが参加した。

天曆6月15日(陽曆7.30)、大邱広域市中区庁大講堂で開催されたシンポジウムには、イ・ワンヨン国会議員、ホン・ヒラク国会議員、ユン・ヨンヒ大邱平和大使協議会長、ソン・ギウン統一研究院専任研究員、キム・ヨンハ慶北大学教授をはじめ、政治、教育、NGO指導者が参加した。イ・ワンヨン国会議員、ホン・ヒラク国会議員、ベ・ジスク大邱市議会企画行政委員長などが祝辞を述べ、統一研究院専任研究員のソン・ギウン博士が「DMZ世界平和公園は、韓半島と北東アジア平和と共同繁栄のための踏み台」という主題発表をした。座長にはユン・ヨンヒ博士が、討論にはキム・ヨンハ慶北大学教授とチェ・ミファ毎日新聞審議室長が参加した。女性連合は、UNの未来に関して、上院としての超宗教議会設立を提唱された眞の父母様の平和のビジョンをもとに、韓半島第5UN事務局誘致の正当性を説明し、全国的に誘致署名運動を展開している。シンポジウム参加者は、UNに提出する第5UN事務局韓半島誘致請願書にサインした。<記事提供:世界平和女性連合>

真の父母様の伝統相続・統一家の未来開拓のための様々な記念行事進行



出発前にCARPセンター前で記念撮影するCARP希望旅行団



鴨緑江の鉄橋で記念撮影するCARP白頭山探訪団



グループプロジェクトに参加する修練生



天宙聖和3周年勝利を決意する韓国CARP第2次夏季休暇修練参加者



烽火山の聖地に登った修練生

文鮮明天地人真の父母天宙聖和3周年を迎え、韓国大学原理研究会(以下、韓国CARP)は、「2015年夏季休暇特別修練(以下、特別修練)」をはじめ、CARP希望旅行団、大学生白頭山探訪、第1回私たちの歌創作コンテスト大会などの記念行事を開催し、「2015全国成和キャンプ」と「青年学生世界総会」に参加するなど、真の父母様の伝統相続と一緒に、統一家の未来を開拓するための様々な活動を展開した。

天の祝福と賜物確認したCARP特別修練

真の父母様は天一国3年陽曆4月1日、天正宮訓誦会で文相弼韓国CARP会長に「夏季休暇新規CARP会員500人修練」を指示された。韓国CARP公職者と会員は天が与えた使命を果たすために心を一つにして修練準備と伝道に全力投球した。

韓国CARP主管特別修練が、未来指導者育成に対する真のお母様の格別な関心と愛と支援の中で「CARPへの招待、永遠に愛します、真の父母様」というテーマで麗水清海研修院で実施された。特別修練は天曆5月3日から6月9日まで(陽曆6.18~7.24)合計5回にわたり行われ、休眠会員253人、新規会員25人、既存会員258人など合計537人が

参加した。韓国CARPは天の父母様の深い愛と導きが修練期間中、常に共にあったことを確認できた。修練期間が梅雨期間と重なり、修練スタッフは企画した屋外プログラムを進めることができるか常に心配した。ビジョン風灯飛ばし、聖地巡礼、キャンプファイヤー、バーベキューパーティー、海洋チャレンジなどは雨と風が吹けば決して行うことができないプログラムである。5回の修練を進行して、そのプログラムが行われる日、気象庁が雨と強風を予測したことが多かった。しかし、実際にプログラムを始めようとすると、天は雨と風が止むようにされ、澄んだ空を許された。天気を主管された天の役事は、修練の最大の賜物の一つであった。修練に参加したCARP会員は真の父母様の生涯伝統を相続し、実体天一国時代に統一家の未来に責任を持ち、天一国の心情文化を創建する真の主人の使命を果たすことを約束した。一方、100人余りの韓国CARP会員は天曆6月23日から25日まで(陽曆8.7~9)2泊3日間、世界ジャンボリー修練場で開催された「2015全国成和キャンプ」に大学生スタッフとして参加し、将来のCARP会員である成和学生の弟妹のために奉仕した。

統一念願し白頭山探訪及び全国巡礼

「CARP白頭山ピースロード探訪」が天曆5月22日(陽曆7.7)から4泊5日の日程で、民族の靈山白頭山をはじめ、中国と北朝鮮の国境地帯である大連、丹東、通化、和龍、長春などで行われた。「統一のその日のために祖国よ、明るくなれ」というテーマで開催された今回の探訪には30人余りの韓国と日本の大学生が参加した。

探訪団は安重根義士が投獄された旅順監獄を訪れ、祖国独立に対する安義士の崇高な精神と実践的生を称える時間を持ち、民族の靈山・白頭山と鴨緑江の鉄橋の上で分断の痛みを越えて統一をなすことを懇切に念願した。

韓国CARPは白頭山探訪をきっかけに、平和統一を達成するために、2学期から統一セミナーと青年統一運動活性化のための戦略会議など具体的な活動を展開する計画である。

一方、「CARP希望旅行団」は天宙聖和3周年と光復70周年を記念して、天曆6月28日から7月3日まで(陽曆8.12~16)、西海岸と東海岸に沿って列車に乗って全国を巡礼した。「私たちの列車は、平和と統一の希望を抱いて走る」というテーマで行われたこのプロジェクトには、CARP会員、伝道対象者、公職者など21人が参加した。

「CARP希望旅行団」は4泊5日間、真の父母様が直接牧会された青坡洞本部教会(現在の韓国CARPセンター)を出発して、海洋摂理の聖地である麗水清海研修院まで電車に乗って聖地巡礼、統一念願祈禱会、光復70周年記念行事、地方教会支援などをして、真の父母様の心情を相続し、統一の大きな夢と気性を胸に抱く意義深い時間を持った。

また「CARP希望旅行団」は、天曆7月2日(陽曆8.15)、チーム別巡礼を終えて順天で再び出会った照礼湖公園で光復70周年を記念して、パフォーマンスと行進をした。順天市民も青年学生の希望に満ちた叫びに同参して万歳を呼んだり写真を撮るなど、多くの関心を見せた。

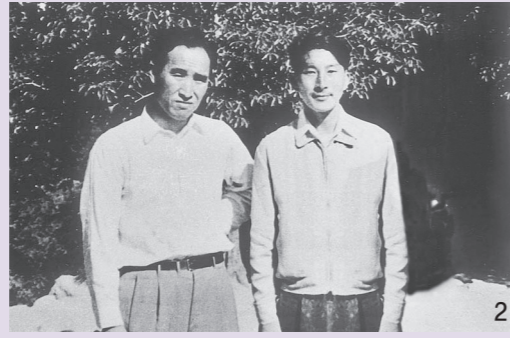
韓国CARPは天曆6月23日(陽曆8.7)から21日の日程で行われる「2015グローバルトップガン修練会」に公職者全員を出席させて、天地人真の父母様を中心に世界各国から来た青年指導者と交流し、天一国実体化基盤を拡大していくことができるビジョンと希望を共有する時間を持った。続いて天曆7月15日から17日まで(陽曆8.28~30)、天宙清平修練苑で開催される青年学生世界総会に参加する予定である。〈記事提供:韓国CARP〉



真の父母様の摂理的足跡;赦しと愛で抱き祝福受けた日本



苦難と試練を超え日本教会開拓・み言葉伝播で日本全域に基盤拡大



1.早稲田工学高等学校同級生らと共に
 2.真のお父様と崔奉春宣教師
 3.日曜礼拝をささげる草創期の日本
 4.第1期特別修練会開会式後の団体記念撮影
 5.路上で講義する周藤健

文鮮明天地人真の父母天宙聖和3周年を迎えて本紙は、母の国・日本が神様の解放と人類の救いのための摂理を導いて行かれる真の父母様に侍り、世界摂理のために貢献した歴史を上編と下編に分けて要約・整理し紹介したいと思う。特集2号上編では苦難と試練を乗り越え、日本教会が創立されて以来、日本全域で宣教基盤を拡大するまでの歴史を整理した。

日本留学時代と最初の収監

真のお父様の生涯の中で天命を受けた後、1945年8月15日光復を迎えるまでの期間中、日本に留学していた1941年4月から1943年10月までの約2年6ヵ月は重要な意味を持つ。

真のお父様を乗せた船が釜山を離れて下関港に到着する予定時間は、1941年4月1日午前7時だった。真のお父様は、3月31日の夜から8時間船内ではなくデッキで精誠に捧げられ、「悲惨なこの民族を誰が束縛から救ってくれるのでしょうか。私が夜を明かして星を眺めながら、精誠を捧げますので、この民族のために私が今、出発しますので、戻ってくるまで、神様よ、お守りください。、『文鮮明先生み言葉選集39巻』63ページ)」と祈禱された。

真のお父様は「当時の心情を忘れることができない」と言われた。21歳で祖国を離れ、日本に向かう真のお父様の心中には私的な考えは一つもなく、ただ国を心配する気持ちに満ちていた。そのように真のお父様は生涯で初めて日本の地を踏まれた。

日本留学中、真のお父様は、「原理」を明らかにしただけでなく、み言葉の実体とられた。また、世界を復帰するためのアダム国家を立てるために、朝鮮独立運動に同参し、社会全般で起こる様々なことを体験し、人間と宗教に関する研究に没頭した。メシヤとしての使命を果たすための準備をされた。

真のお父様は、日本留学を終えて1943年10月に帰国してしばらくして、日本で独立運動をしたことが明らかになり、京畿道警察部に連行された。真のお父様は「神様の心情を抱いて国を愛し、世界を救わなければならない」という一念で活動をしながら、日本に逮捕され大変な拷問を受けられた。その拷問で生命が危うい状況に達したが、むしろ拷問した人を許され愛された。

苦難と試練を越えた開拓・日本教会の黎明期

1954年協会創立以来、真の父母様は世界宣教にみ旨をおき準備された。最初の公式宣教師が海外に派遣された地域は、真のお父様が青年時代に留学され、後日、母の国になった日本である。

1958年5月30日、真のお父様は忠南公州の甲寺で崔奉春宣教師の日本派遣を最終決定され、「法治国家で違法であることを知っているが、国運と天運は人間の法を超越して訪れる。民族と国家の未来を知っている人が、その道を開かなければならない。正義の信念と行動は歴史が保障する」と公式に下命をされた。

同年7月17日、崔奉春宣教師は、釜山で密航船に乗って小倉港近くの海域に到着した。小倉上陸が許可されていない状況で、崔宣教師は天の前に到着を報告する祈りをした。しかし、密航船は呉海上で保安警備船に連行され、崔宣教師は拘束されて海上保安部の留置所に送致された。その後、広島刑務所、山口刑務所を経て、下関療養所に移送される過程で、劇的に脱出して東京に向かった。

東京に到着した崔奉春宣教師は、寒さと空腹を乗り越えて、孤独な宣教開拓の道を歩んだ。さらに、不法滞在者という身分で法の網を避けながら、追われるように伝道をしなければならなかった。しかし、崔宣教師は「私は絶対に死なない。私は必ず日本を救う」と決意を固めた。

4月から展開された宣教の実りとして1959年10月2日、3人の食口と一緒に雄鷄舎で日本統一教会歴史上、最初の礼拝を捧げた。世界宣教国の中で最初に日本教会が創立されたのである。

日本統一教会は雄鷄舎・統和社・飯田橋・新大久保・杉並区馬橋・立体文化センターなどを経て、徐々に拡大・成長していった。この期間中、松本道子、桜井節子、小室博之、澤浦秀夫、周藤健、久保木修己、小山田秀夫などの草創期の中心食口が入教した。1964年7月、世界基督教統一神霊協会が、日本で宗教法人として正式に認可を受け、久保木修己が初代会長に就任した。

(8面で継続)

第1次世界巡回の最初の訪問地として東京に到着

1965年1月28日真のお父様は、世界を神様の側に復帰するための第1次世界巡回で最初の訪問国として日本に到着した。留学後21年ぶりに東京に来られた。日本食口は熱い歓呼とともに、聖歌『園の歌』を合唱して真のお父様を歓迎した。

真に感無量の最初の宣教地訪問だった。真のお父様は東京教会聖殿に集まった250人の食口に「神様の目的と私たちの目的」というタイトルで語られ、「日本食口に対する永遠の神様の賜物と導き」を祝福され、「天の願いをなす日本教会となること」を願われた。

一方、真のお父様は、日本滞在中、東京、名古屋、大阪、高松、広島、福岡、北海道、仙台など8カ所に聖地を定められ、全国の教会を巡回された。聖地を決められる時、真のお父様は祝福のみ言葉を下さり、食口と一緒に聖歌『新しいエデンの歌』などを歌い、恵み深く儀式を進められた。現地の食口と別れるときは、聖歌を何度も繰り返し返して歌い、惜別の名残惜しさをなだめて下さり、祝福を通して「天の前に勝利の結実を献呈する子女となること」を祝福した。

真のお父様は、日本を離れ、北米、南米、欧州、アフリカ、中東、インド、東南アジア諸国、香港、中華民国を経て韓国に帰国される前の1965年9月29日、東京に再び寄られた。東京で歓迎集会後、真のお父様は箱根、大石寺、伊丹などを巡礼され、早稲田大学原理研究会寮で、次のように語られた。

「先生は今まで命をかけて、この道を行ってきました。数千、数万回も死にそうだという覚悟をしたか解かりません。このような人生を生きてきたのは、食べて生きるためではありません。名誉のためにそうしたのでもありません。誰かが懐かしくてそうしたのでもありません。神様を知り、神様の心情と悲しみを知ったからです」

み言葉伝播を通じた日本の復興運動

『原理講論』の日本語版が出版されたのは1967年である。日本統一教会創立8周年記念日の同年10月2日、「『原理講論』発刊式」が行われた。また1968年4月5日、出版社の光言社が設立され、統一原理を日本国民全体に伝えることができる基盤が準備された。

日本で40日夏季開拓伝道が始まったのは1961年からだ。『原理講論』のみ言葉を学んだ土台の上で、真のお父様の指導に基づいて1967年7月20日から8月28日までに937人の食口が40日間483都市に夏季開拓伝道に出発した。

1972年11月27日から12月1日まで、守山修練所で国際統一十字

軍(IOWC)開拓修練会が実施された。一方、修練会終了後、参加者は12月2日、全国140カ所に対する開拓伝道の壮途に出かけた。「100日修練会」が1973年7月5日から指導者を対象に開始された。これは「社会、国家、世界の指導者になる人は、まず、3つの力、すなわち正しい価値観に基づく説得力、渉外力と外交力、経営力を持たなければならない」という真のお父様のみ言葉に従い、原理、勝共理論、統一思想を深く学び、伝道能力と管理能力を高めるための修練で、日本では第1期から第18期まで実施され、その後「四十日修練会」に転換されて教育が実施された。

一方、1973年6月2日から1974年5月12日まで久保木修己会長が全国124カ所を縦断する「救国の予言」講演会を実施し、各界指導者を含み計17万人の聴衆が参加した。真のお父様は、彼の苦勞を称えて自筆で書かれた賞牌を授けた。

国際復興団(IOWC)の開拓伝道と全国活動

1975年1月24日、104カ国のメンバーで構成された国際復興団(IOWC)360人が羽田空港に到着した。人員構成は、米国102人、フランス67人、ドイツ52人、オーストラリア35人、日本25人、韓国25人だった。彼らは全国各地で開催された「希望の日」晚餐会を中心に活動し、日本国内で国際的な伝道活動を展開する新紀元をなした。

「希望の日」晚餐会の内容は、新しい希望合唱団とハンソン舞踊団の公演と朴普熙国際復興団(IOWC)総裁の「希望の日」メッセージなどで構成された。1975年3月下旬には、日本のメンバーを含む600人の国際復興団(IOWC)メンバーが訪韓し、韓国各地で開かれた「希望の日」晚餐会に参加し、同年6月7日、ソウル汝矣島広場で開かれた120万人が参加した「救国世界大会」支援活動に参加した。

1975年6月18日と20日、二つに分かれて下関に到着した国際復興団(IOWC)メンバーは、合計6チームに分かれて、それぞれ鹿児島、福岡、広島、徳島、大阪、神戸で活動した。その後、横浜、金沢、前橋、徳島、名古屋、札幌に移動し、続けて活動に取り組んだ。1976年1月17日には、国際復興団(IOWC)欧州チームが日本を訪問した。

一方、真のお父様の提唱により、1977年3月1日国際復興団(IOWC)の相対組織として、日本復興団(JOWC)が結成され、活動を開始した。〈出典：『真の父母様の摂理の足跡;日本I』〉



1.1972年2月東京で開かれた希望の日の晚餐会
2.埼玉で行われた食口集会で語られる真のお父様
3.1965年聖地を決められた後、日本指導者らと記念撮影される真のお父様